様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　５ 月 ３１ 日現在

機関番号：１１６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ０２７５０

研究課題名（和文）国際的視野から日本文化を理解する力を養う古典教育カリキュラムの研究

研究課題名（英文）Research on a classical education curriculum that cultivates the ability to understand Japanese culture from an international perspective

研究代表者
井實　充史（Iijitsu, Michifumi）

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号：２０２７７７７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、まず、古典に親しみをもって接するところから始め、系統的かつ段階的に読み深めていくことができる教材用テクスト（語注、現代語訳、参考資料を含む）のモデルを構築した。次に、古典嫌いを誘発する元凶である講義調の伝達型授業から脱却し、主体的な言語活動を重視する指導法を開発した。さらに、大学の教科専門、教科教育、現職の学校教員の協働によるＰＤＣＡサイクル型カリキュラム開発モデルを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
学習指導要領の改訂において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が進められている中で、言語活動を取り入れた古典教育の授業案や実践報告が多数報告されていた。しかし、その多くは教科書に掲載されている特定の古文や漢文をそれぞれ単発的に取り上げるか、現代の文章と比較するかに留まっており、古文と漢文を同時に取り上げて比較検討したり引用の表現効果を考えたりする授業案や実践報告はほとんどなかった。本研究では、古文と漢文を共に取りあげた教材の開発と、その教材を活かせるような言語活動を取り入れた指導法を開発した。

研究成果の概要（英文）：In this study, we started by getting familiar with the classics, and constructed a model of texts for teaching materials (including word notes, modern translations, and reference materials) that can be read and deepened systematically and step by step. Next, we have developed a teaching method that emphasizes independent language activities, breaking away from the lecture-style transmission-type lessons that are the main cause of dislike of classics. Furthermore, we constructed a PDCA cycle-type curriculum development model in collaboration with university subject specialization, subject education, and incumbent school teachers.

研究分野：日本文学

キーワード：古典教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

学習指導要領の改訂において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が進められていた。また、古典教育においては、生徒に古典への親しみを持たせるような授業内容・方法の改善が求められていた。それゆえ、古文と漢文を共に取りあげた教材の開発と、その教材を活かせるような言語活動を取り入れ、古典教育においても「主体的・対話的で深い学び」が実現できるような指導法を開発することが急務であった。

２．研究の目的

学習指導要領の改訂において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が進められている中で、言語活動を取り入れた古典教育の授業案や実践報告が多数報告されていた。しかし、その多くは教科書に掲載されている特定の古文や漢文をそれぞれ単発的に取り上げるか、現代の文章と比較するかに留まっており、古文と漢文を同時に取り上げて比較検討したり引用の表現効果を考えたりする授業案や実践報告はほとんどなかった。本研究では、古文と漢文を共に取りあげた教材の開発と、その教材を活かせるような言語活動を取り入れた指導法を開発することを目的とした。あわせて、それらを通常の古典教育にどう組み込めば効果的かについても検討し、和漢融合した古典教育カリキュラムの開発を目的とした。

３．研究の方法

本研究では、まず、古典に親しみをもって接するところから始め、系統的かつ段階的に読み深めていくことができる教材用テクスト（語注、現代語訳、参考資料を含む）のモデルを構築した。次に、古典嫌いを誘発する元凶である講義調の伝達型授業から脱却し、主体的な言語活動を重視する指導法を開発した。さらに、大学の教科専門、教科教育、現職の学校教員の協働によるＰＤＣＡサイクル型カリキュラム開発モデルを構築した。

４．研究成果

本研究の成果を著書及び論文として刊行した。その主たる内容は以下の通りである。

（著書）

1.学びを深めるヒントシリーズ　枕草子、共著、令和 2 年、明治書院、12 頁分執筆

主体的・対話的で深い学びを実現したいと考える指導者のために、『枕草子』の中から高校教科書に掲載され授業によく扱われる章段を選び、「原文・現代語訳・語注・鑑賞のヒント・鑑賞・探究のために・資料」の構成で学びを深めるヒントをまとめた。執筆担当部分は跋文及びコラム一つ。

（論文）

1.外国文化との関係を理解するための和歌教材の開発―高校「言語文化」を想定して―、単著、令和 3 年 3 月、言文 68、14 頁

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）の改訂により新設される科目「言語文化」に対応した新たな文学教材の開発を行った。具体的には、「言語文化」（知識・技能）（3）に示されている日本文化と外国文化との関係を理解するための教材として、①中国文化の受容について学習できる教材、漢詩の受容について学習できる教材、③同じテーマを詠んだ和歌と漢詩とを対比させながら両文化の共通点や相違点について学習できる教材を開発した。

2.文学的引用の手本としての『おくのほそ道』教材の開発 ―「古典の一節を引用する」を中心に―、単著、令和 3 年 6 月、福島大学人間発達文化学類論集 33、12 頁、

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）国語科中３〔知識・技能〕（３）イに示されている古典の一節を引用して使うための教材を開発した。具体的には、江戸時代の俳文『おくのほそ道』を文学的引用の手本として学習するのにふさわしい章段として「発端」と「平泉」を取り上げ、李白の文、能因の和歌、杜甫の詩を引用しつつみごとな和文を創出していることが理解できるように本文・注・現代語訳を整備し、かつ学習目標・課題・手順のモデルを提示した。

3. 外国文化との関係を理解するための物語教材の開発〔単元構想と実践編〕―『源氏物語』桐壺巻と「長恨歌」との読み比べ―、大堀真理子と共著、令和 4 年 3 月、言文 69、11 頁分執筆

外国文化との関係を理解するための指導が、『学習指導要領』の変遷のなかでどのように位置づけられてきたのかを明らかにした上で、既存の教材を用いて手軽に実践できそうな授業として、「光源氏誕生」と「長恨歌」との読み比べ単元を構想、実践した。実践するにあたって生徒の実情に応じて計画を変更することで、単元構想の課題と可能性を明らかにした。本授業における生徒の学習成果物として、記述式課題の答案 74 人分のデータを集積し得た。

4.外国文化との関係を理解するための物語教材の開発〔分析編〕―『源氏物語』桐壺巻と「長恨歌」との読み比べ―、単著、令和 3 年 3 月、福島大学人間発達文化学類論集 35、16 頁

上記の記述式課題の答案 74 人分を、文章量及び記述内容の観点から分析することで、日本文化と外国文化との関係を理解するために必要な教材や指導内容、指導方法のあり方と探求した。具体的には、①記述式課題の示し方や指導上の注意点について、②類似点と相違点について、③継承の理由や効果について、④改変の理由や効果について、⑤不十分な記述パターンについて、今後の授業実践に有益な知見を得た。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 井実充史	４．巻 68
２．論文標題 外国文化との関係を理解するための和歌教材の開発―高校「言語文化」を想定して―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 言文	６．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤佐敏	４．巻 41
２．論文標題 古人と対話する和歌のオマージュ：国語の授業における古典との豊かな邂逅	５．発行年 2020年
３．雑誌名 新大国語	６．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 澁澤尚	４．巻 68
２．論文標題 『おくのほそ道』序文「月日は百代の過客」小攷―李白「春夜宴桃李園序」詳解を通して―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 言文	６．最初と最後の頁 15-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 髙橋正人	４．巻 32
２．論文標題 高等学校「古典探究（Advanced Classics)」における探究的な学びの深化に関する研究―「若紫」における視線・顔認識・フランス語訳・映像テクストをめぐって―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 人間発達文化学類論集	６．最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井実充史・大堀真理子	4．巻 69
2．論文標題 外国文化との関係を理解するための物語教材の開発〔単元構想と実践編〕―『源氏物語』桐壺巻と「長恨歌」との読み比べ―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 言文	6．最初と最後の頁 18-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井実充史	4．巻 35
2．論文標題 外国文化との関係を理解するための物語教材の開発〔分析編〕―『源氏物語』桐壺巻と「長恨歌」との読み比べ―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人間発達文化学類論集	6．最初と最後の頁 115-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 井実充史
2．発表標題 『おくのほそ道』初章の指導書を読み直す
3．学会等名 福島国語の会
4．発表年 2019年

1．発表者名 澁澤尚
2．発表標題 李白「春夜宴桃李園序」を読み解く―『おくのほそ道』冒頭との関わりにおいて―
3．学会等名 福島国語の会
4．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤佐敏
２．発表標題 「古人と対話する和歌のオマージュ―国語の授業における古典との豊かな邂逅―」
３．学会等名 新潟大学教育学部国語国文学会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計2件

１．著者名 早稲田久喜の会	４．発行年 2020年
２．出版社 明治書院	５．総ページ数 248
３．書名 学びを深めるヒントシリーズ　枕草子	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高橋　正人 (Takahasi Masato) (00809189)	福島大学・人間発達文化学類・特任教授 (11601)	
研究分担者	佐藤　佐敏 (Sato Satoshi) (10510167)	福島大学・人間発達文化学類・教授 (11601)	
研究分担者	澁澤　尚 (Shibusawa Tadashi) (60344826)	福島大学・人間発達文化学類・教授 (11601)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関